

結核の治療成績における治療中断について

この度、公益財団法人結核予防会結核研究所 臨床疫学部 河津里沙主任研究員らは、本邦において2006年～2016年に新登録肺結核患者として登録された15歳から64歳の患者の治療成績における治療中断の分析を行い、登録時外来で治療開始（調整オッズ比 [aOR] 1.46, 95%信頼区間 [CI] 1.33–1.60）が治療中断の危険因子であることを報告しました。更に女性では職業が医師（aOR 2.07, 95%CI 1.23–3.48）及び看護師・保健師（aOR 1.18, 95%CI 1.91–1.37）であることも治療中断の危険因子であることもわかりました。更にこの結果に関して保健師を対象にフォーカスグループディスカッションを行い、医療従事者の治療中断における課題を提起しました。

本研究は2018年6月15日に国際学術誌“PLOS One”にオンライン掲載されました。以下に論文の概要を簡単に記載しますが、図表も含めて情報をご利用の際は出典を次の通り明記してください：

Kawatsu L, Uchimura K, Ohkado A, Kato S (2018) A combination of quantitative and qualitative methods in investigating risk factors for lost to follow-up for tuberculosis treatment in Japan – Are physicians and nurses at a particular risk? PLoS ONE 13(6): e0198075. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0198075>

尚、図表に用いた全ての元データも上記にて公開しています。

目的と方法：結核治療における中断を可能な限り抑えることは再発・薬剤耐性結核の発病予防の観点からも重要な課題である。本研究はサーベイランスのコホート・データの定量的な分析と、フォーカス・グループ・ディスカッション(FGD)を通じた質的な分析を組み合わせ、治療中断のリスク要因とその原因を探ることを目的とする。方法に関して、量的な部分としては結核サーベイランスにおいて2006年～2016年に新登録となった肺結核患者のコホート・データより、治療成績が「中断」となった者を抽出し、主な属性や傾向を記述した。また、国内外の先行研究のレビューより、治療中断のリスクと指摘されており、尚且つ、サーベイランスにて収集している要因を抽出し、治療脱落を目的変数としてロジスティック回帰分析を行った。質的な部分としては、コホート分析の結果より、リスク要因と特定されたものを中心にFGDを実施した。FGDの参加者は結核研究所が主催している国内研修（H29年実施予定の保健師・対策推進コース）の参加者より募集した。

結果：当該期間中における治療中断率は7.8%（5,760/73,591）であった。全ての年齢階層において男性と比較して女性の方が治療中断率が高く、15歳から24歳の女性において最

2018年6月27日

も高かった (9.0%, 314/3,477)。また男性においては職業間における治療中断率に大きな違いは見られなかったが、女性においては医師、及び看護師・保健師において顕著に高かった (17.6%, 18/102 and 11.4%, 274/2,394)。治療中断の危険因子としては、全体で見ると登録時外来で治療開始 (調整オッズ比 [aOR] 1.46, 95%信頼区間 [CI] 1.33-1.60)が有意であったが、更に女性では職業が医師 (aOR 2.07, 95%CI 1.23-3.48) 及び看護師・保健師 (aOR 1.18, 95%CI 1.91-1.37) が有意であった。フォーカスグループディスカッションの結果、医療従事者は「職業上、生活が不規則になるため」「医療従事者であるがゆえに結核のリスク認識の度合いが低い」「信頼関係を築くことが難しく、中々DOTSを受け入れてもらえないため」などが、保健師が感じる、医療従事者の治療中断に関する課題として抽出された。

結論: 本研究の結果、外来患者に対する患者教育の不十分さが示唆された。また医療従事者にとって現実的で、尚且つ受け入れやすい服薬支援体制の構築が望まれる。

【本資料及び論文に関するお問い合わせ先】

公益財団法人結核予防会結核研究所 臨床疫学部

河津里沙

Tel: 042-493-5711

Fax: 042-493-5529

Email: kawatsu@jata.or.jp